

各団体による野菜の消費拡大の取組について

会 員 名	取 組 概 要
全国農業協同組合連合会	1. 「やさいの日」の取組み (1)開催時期:8月31日(金) (2)場所:秩父宮ラグビー場 (3)内容:トッパリーグ(サントリー vs NEC)開幕戦にあわせて、ラグビー協会との共催で、国産野菜の消費拡大を訴求 ア. ラグビー選手の普段の食生活における野菜摂取に関してのトークショー(予定) イ. 各県の特産野菜の即売会 ウ. 野菜摂取促進を訴求したうちの配布 (県JA、県連、都府県本部開催予定の「やさいの日」イベントにおいて各県900枚、全国合計45,000枚配布予定) エ. 野菜の収穫体験等のイベントの実施(詳細は検討中)
	2. ラジオ放送局(関東圏)と連携した取組み (1)実施時期:平成24年4月～9月 (2)内容: ア. ラジオでの旬の青果物に関する情報発信(毎週土曜日) (商品・産地・出荷情報、JA全農青果センター職員電話出演によるPR等) イ. リスナーと生産者との交流イベントの実施 (播種・定植:5/26、収穫:8/25、各回親子5組10名参加) ウ. ラジオによる事前告知等を含む青果物の販売促進イベントの実施 (7/31、8/28、9/25、11/3) エ. 毎月1回番組内プレゼントコーナーへの商品提供(毎月5名)
	3. 大学との連携による食育セミナーの開催 (1)実施時期:平成24年11月(予定) (2)場所:関東圏の大学(予定) (3)内容(予定): ア. 青果物の摂取促進を内容とする特別講義 イ. 有識者と学生による「食」と「農」をテーマとするディスカッション ウ. 大学生協との連携による国産青果物を使った料理メニュー提案
	本所での取組みを中心に記載。各県本部においても消費宣伝・消費拡大の取組みを実施。
全国地域婦人団体連絡協議会	千葉県連合婦人会の取組み 地産地消と健康をテーマに料理講座を実施している。24年度は、高齢者、特に一人暮らしの方を考慮して計画。認知症について講演を実施するのでそれに関連して、生活習慣病の予防に焦点をあてる。栄養面だけでなく作り易さを考慮する。 テーマ:千葉の野菜を使ったカンタン料理～ひとり暮らしでもバランスよく～ (できれば若い男性のひとり暮らしの方にもお声掛けをする。)
社団法人日本栄養士会	①健康日本21(第2次)計画の推進 健康日本21(第2次)は、10年後を見据えた目指すべき姿を、全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会とし、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤食生活、運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善、の5つを基本的な方向として策定される。 [栄養・食生活分野] ○ 野菜の摂取量の増加 現状(平成22年):野菜摂取量の平均値:282g 目標(平成34年度):野菜摂取量の平均値:350g ※健康日本21と同様に、カリウム、ビタミンC、食物繊維等の適量摂取が期待される量として、1日当たりの平均摂取量350gを目標値とする。
	② “健康増進キャンペーンin香川”の開催 平成24年8月31日(金)[野菜の日]に、香川県(野菜の摂取量が全国最少、糖尿病の受療率全国一)高松市において、I部:野菜を食べよう2012、II部:食で防ごう糖尿病として、一般の方を対象に開催予定。 ・「野菜たっぷり350(サン・ゴー・マル)」運動宣言 ・野菜、糖尿病に関する講演・実演・実技 ・野菜クイズ ・管理栄養士による栄養相談 ・展示・体験コーナー ・「ヘルシーダイアリー」(平成24年度テーマ:野菜と食べよう、糖尿病予防)
	③ 野菜の機能性・ファイトケミカル普及(医食農同源)の推進

NPO野菜と文化のフォーラム	野菜の品種による調理特性研修会・・・作物「カボチャ」 10月4日(木)女子栄養大学松柏軒(東京 駿河) 品種によって違う野菜本来の味や特性を生かす調理法を探る研究会。調理法・品種別の食べ比べ等を行う。
	有名野菜品種特性研修会・・・作物「中玉トマト」 12月4日(火)女子栄養大学松柏軒(東京 駿河) おいしさに関わる様々な視点から「食べくらべ」を通して、品種特性を明らかにする研究会
NPO法人青果物健康推進協会	1 スーパーでの販売促進研修会 (1)産地と連携してスーパー各店舗の担当者並びにパート従業員の販売促進研修会の実施 (2)販売促進に効果的なPOP等ツール類の開発、制作
	2 小学校での出前授業等の実施 (1)「地元の野菜を知って、野菜博士になろう」をテーマとして出前授業の実施 (2)小学校等での野菜料理教室の開催
	3 風評被害対策活動 (1)昨年度に引き続き、「EAT FOR NIPPON」～国産食べよう～運動の実施 (2)「放射性物質の正しい知識バイブル」の製作(正しく恐れることの意味を伝える) (3)放射線医学総合研究所から講師を派遣してもらい研修会を開催 (4)著名人を起用した風評被害予防の呼び掛けビデオをYOUTUBEで配信
	4 企業での野菜摂取拡大の取り組み (1)企業の健保組合と連携して 野菜摂取拡大を目的とした研修会の開催のほか、メールマガジン等の配信
	5 認定事業 (1)国産野菜がたくさん、おいしく食べられる外食店舗の認定 (2)国産野菜がたくさん、おいしく食べられる社員食堂の認定 (3)国産農産物のブランド認定の実施
全国青果物商業協同組合連合会	毎年、秋を中心に行われる全国の市場祭りイベントを通して消費拡大に努める。
農林水産省	1 「夏ベジプロジェクト」の実施 今年度も「夏の元気は野菜から！」をコンセプトに、7月～9月を実施期間として、夏ベジプロジェクト参加企業・団体等の協力のもと、以下取組等を実施する予定。 (1)フード・アクション・ニッポン公式サイトにて、夏野菜の取材記事、各地の夏野菜イベント情報などを掲載 (2)7月16日開催の「ベジタブルマラソン in 夢の島」において、参加者に野菜をプレゼントするとともに、野菜消費拡大のPR (3)食品企業の商品サンプリングウェブサイト「モラタメ」とのコラボにより、野菜をテーマにしたフォトコンテストを実施。優秀作品を投稿して頂いた方には野菜商品等プレゼント
	2 被災地応援取組の「農林水産省食堂応援フェア」実施による被災地産野菜の消費促進 6月～10月(予定)で「食べて応援しよう！」の一環として農林水産省内食堂・売店にて応援フェアを実施し、食堂等にて被災地産野菜の活用促進を実施。